

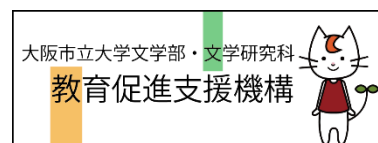
Part.1 教育促進支援機構の活動

教育促進支援機構では、学生（学部生および大学院生）の「学び」を支援する多彩な事業を、学生みずからが企画・立案し、教員と協働して実施しています。教員と学生が対等な立場で運営と意思決定に参加する支援機構は、教員と学生の双方に普段の教室とは異なる仕方で協働する機会を提供することで、文学部・文学研究科の教育活動に創発的な学びの次元を付与しています。

支援機構の活動は、以下の【5つの部門】に分類されます。支援機構が行う事業には、学部・研究科から協力を依頼されて実施するものと、学生の企画提案にもとづいて実施するものがあります。いずれの場合も、具体的な事業内容は、学生会員の中から選出される企画リーダーを中心とする企画スタッフチームが立案します。学生会員は誰でも学生運営委員を通して、新たな企画を運営委員会に提案することができます。

ホームページ：<https://www.lit.osaka-cu.ac.jp/education>

Twitter：@oculit_spel（学内向け）／@oculit_spelPR（学外広報向け）



2019年度 活動一覧

【教育支援】

履修相談会（4月）
新入生歓迎キャンプ（4月）
学生による春のコースガイダンス（6月）
学生による秋のコースガイダンス（11月）

【進路支援】

進路ガイダンス（12月）

【研究支援】

勉強会・自主ゼミ支援事業
共同出版支援事業
研究誌出版支援事業
研究奨励賞

【編集】

文学部案内冊子『学文』発行（8月）
『フォーラム人文学 No.17』発行（3月）

【広報】

春の市大授業（4月）
オープンキャンパス学生企画（8月）

会議日程

総会

2019年4月26日

運営委員会

| | |
|------|-------------|
| 第1回 | 2019年4月19日 |
| 第2回 | 2019年5月17日 |
| 第3回 | 2019年6月21日 |
| 第4回 | 2019年7月19日 |
| 第5回 | 2019年9月13日 |
| 第6回 | 2019年10月18日 |
| 第7回 | 2019年11月22日 |
| 第8回 | 2019年12月20日 |
| 第9回 | 2020年1月24日 |
| 第10回 | 2020年2月21日 |
| 第11回 | 2020年3月19日 |

pp.5-13 では、2019年度に開催された
学生企画の詳細を紹介しています





履修相談会

実施日：2019年4月2日（火）、4月3日（水）

場所：大阪市立大学杉本キャンパス 学術情報総合センター 5F ラーニングcommons

企画期間：2018年11月～当日

企画スタッフ：11名（3回生2名、2回生4名、1回生5名（※企画開始時））

当日スタッフ：33名

参加者：1日目午前39名、午後33名、2日目午前40名、午後33名（計145名）

ご協力いただいた先生方：福島先生、佐伯先生、学術情報総合センター レファレンスサービス担当の皆様 ほか



履修相談会とは、新入生の時間割組みを学生主体でサポートする企画です。時間割組みという新生活の初めの一步を不安なく、有意義なものにするため、我々は3つの指針を立てました。それは「市大文の学びや制度を知り、一人一人の興味や目的に合った時間割の組み方が分かり、今後の大学生活につながる」「アットホームな雰囲気の中で交流し、市大文を好きになることで、これからが楽しみになる」「スタッフは参加者目線に立ち文学部生だからこそできることをして、新入生の不安を取り除く」履修相談会を作り上げることです。これらの理念を掲げ、試行錯誤を重ねながら企画作りを進めていきました。

履修相談会は、上回生2名と新入生4名で1班をつくり、「市大文学び横断クイズ！」というワークを行うことから始まりました。これは、卒業論文の題名からその執筆者のコース名を当てるというもので、その答えの意外さから、1つの事象は様々な視点から捉えることができるということを伝えました。次に「体験談プレゼン」を行い、自分の興味の可能性を時間割によって広げることができるということを、自身の時間割を紹介しながら伝えました。そして後半、制度説明を一通り行った後、履修制度や上回生の時間割をまとめた冊子を使用しながら実際に時間割を組む作業を行いました。今年度は、新たに「語学」「教職課程」「学芸員」などのブースを設け、語学について迷っている人や資格についての話が聞きたい人が自由に質問できるような場所も設けました。履修条件は満たしているか、より自分の興味にあった授業はあるかなど、疑問に思ったことを上回生と相談しながら楽しく時間割を組んでもらえたのではないかと思います。

今年度は、新コースの設置と履修制度の大幅変化に伴い、前年度を踏襲することでは乗り越えられない壁が沢山ありました。だからこそ、私たちにしかできない履修相談会があるのではないかと

思い、新たなことに挑戦することをいとわず自分たちのやりたい企画内容を追求し続けました。新入生にとってよりよい企画にするためにはどうしたらよいか、粘り強く校正やデモンストレーションを重ね、皆で1つの成功に向かっていく過程は困難ながらも楽しい限りでした。そして、当日新入生の笑顔を見ることができたときの達成感はこの上ないものでした。ですが、学生企画に終わりはなく、まだまだ課題や今後の可能性も考え得ると感じています。是非とも来年以降の糧にし、履修相談会の更なる発展に繋げていただけたら嬉しいです。

最後になりましたが、企画を成功させることができたのは、多くの相談に乗っていただき会場を快く提供して下さった学術情報総合センターレファレンス担当の皆様、事前準備や当日にお手伝いいただいた教職員の皆様、当日にご協力いただいた当日スタッフの皆様の力のおかげです。この場をお借りし、スタッフ一同、心より感謝申し上げます。

表現文化コース 3回生 山本莉紗子





新入生歓迎キャンプ

実施日：2019年4月6日（土）・4月7日（日）

場所：大阪市立大学、国立淡路青少年交流の家

企画期間：2018年10月～当日

企画スタッフ：19名（3回生1名、2回生10名、1回生8名（※企画開始時））

当日スタッフ：24名

参加者：109名

ご協力いただいた先生方：草生先生、佐伯先生、小林先生、佐金先生、祖田先生、岩本先生



企画理念：【参加者目線に立ったひとつひとつに意味のある、安心安全な大学生らしい企画をつくる。そして、参加者が市大文について知り、大学生活への不安を軽減できていいスタートが切れるようにする。誰もが幅広く交流できる淡路島ならではのキャンプに！】

まず、二日間を通じて大きな事故や怪我がなく終わったことは重畳であったのと同時に、事前の想定がうまく活きた結果であったと思われ、安心安全な企画運営が行えました。また、一日目午前中に行った自己紹介ゲームと学内クイズレクリエーションからその後も続く班活動の中で、新入生は班内の他の新入生、班長副班長として行動を共にした上回生と交流できる時間をできるだけ取ったため、大学生活を始めていく中で重要になってくる他者とのつながりを作り上げる一助になったと考えられます。スタッフにとっても教員の方と関わる機会はかなり貴重なものなので、新入生にとっては重要な機会となったと思います。

さらに、企画内では学習面企画と称して、二日間を通して自分の興味について考えてもらい、2回生になった際のコース選択につなげるためのコンテンツを行いました。新入生にとって、この入学直後の段階で一度じっくり時間を取って考える機会は貴重なものになったと思います。マインドマップを活用しての個人ワーク、教員の方々の体験を聞くことができるラウンドテーブル、先輩の実体験を聞くことで自らの興味について考えることの大切さを知る体験談プレゼン、参加者自身がこれまでの自分の興味を振り返ることを通じて、現在の自分の興味やこれからとるべき行動を具体的に考えるワークショップと、想定した

流れの中で取り組んでいただけるよう企画運営ができました。

企画に関わった学生スタッフの視点から考えると、どのような企画を行うかをゼロから仲間とともに作り上げ、意見のズレや考えの違いを話し合いの中で調整しながらくみ上げるという経験はとても貴重なもので、結果として笑顔で当日を終えることができたことは、学生スタッフとしてもありがたいことだったと思います。

日本史コース 3回生 瀧田大斗





春の市大授業

実施日：2019年4月29日（月・祝）
場所：大阪市立大学杉本キャンパス1号館
企画期間：4月中旬～当日
企画スタッフ：11名（2回生5名、1回生6名）
当日スタッフ：32名（4回生7名、3回生12名、2回生4名、1回生9名）
参加者：36名（参加者アンケートより）
講義内容：Aコース：文化構想学科表現文化コース 海老根剛先生
「映画的身体」とは何か？－映画表現における身体の諸相
Bコース：哲学歴史学科日本史コース 塚田孝先生
大学で学ぶ日本史とは？－合同調査の20年
Fコース：人間行動学科教育学コース 島田希先生
学びを促す学習環境のデザイナー－教育方法学への誘い
Gコース：言語文化学科英米言語文化コース 杉井正史先生
英国ユートピア文学入門
※C、D、H、Iコースは理学部による講義
学生企画：「文学部学生とのフリートーク」

企画理念

楽しく朗らかな雰囲気で、大学を知ってもらえるような、参加者のための印象に残る企画。

- ・参加者の立場に立った準備をする。
- ・積極的に参加者と接する。

今年度の春の市大授業では、高校生や市大に関心を持つ方々を対象とし、先生方による模擬授業と学生によるフリートークが実施されました。私がリーダーを務めた「文学部学生とのフリートーク」は、上記の理念に基づいて企画され、市大文に興味を持つ方々が大学生と実際に会話することで、疑問を解消したり大学の雰囲気を感じたりする機会となりました。当日実施したアンケートでは「とても話しやすい雰囲気で良かったです。聞きたいことは聞いて、役に立ちました。受験勉強への自信になりました。」という有難いお言葉をいただき、無事理念を達成できた安心感と、満足感を感じております。

私にとって春の市大授業は、企画スタッフとして初めて参加した思い入れのある企画です。昨年リーダーをされていた先輩の背中に憧れて、今回リーダーを引き受けました。事前準備を開始した約3か月前から、相談に乗ったり共に考えたりして支えてくれた、頼りになる同回生の4人。入学したばかりの忙しい時期に、企画に興味を持って参加を決めてくれたフレッシュな1回生の6人。この11人で、理念の考案に始まり、ツール作成や当日スタッフの募集、先生方との話し合いなどを約2週間という期間で行いました。この、他企画に比べて非常に短い準備期間は、文字通り一瞬ですぎていきました。忙しい中にも笑いが絶えない、

スタッフ同士で助け合える空気がそこにはありました。私の自慢の企画スタッフです。一緒に駆け抜けてくれてありがとうございます。

また、支援機構の企画を成功させるために欠かせない要素として、学生と教員の協力があります。今年度、春の市大授業を担当していらした丹羽先生には、準備期間中何度もメールで連絡を取り合い、準備状況の報告や情報提供などをしていただきました。企画実施後も改善点について話し合わせていただき、この密接な関係により、良い企画を作り上げることができたと思います。本当にありがとうございました。そして、市大授業を実施するために協力してくださった全ての方々に、この場をお借りしてお礼申し上げます。今回や今までの経験・反省を活かし、今後こういったイベントが更に洗練され、続いていくことを願っております。

地理学コース 2回生 小島尚子





春のコースガイダンス

実施日：2019年6月21日（金）3限

場所：大阪市立大学杉本キャンパス8号館（840、83A～83D教室）

企画期間：5月中旬～6月末

企画スタッフ：9名（前期博士課程1回生2名、4回生1名、3回生4名、2回生1名、1回生1名）

当日スタッフ：36名

参加者：54名

企画名：導入プレゼン、お題トーク①、②、まとめプレゼン



私たち学生による春のコースガイダンス 2019の企画スタッフ9名は、「参加者にそのコースに入ってよかったと思ってもらえるために、どのようにコース選択すればよいのかを考える素材と自身の興味について考えるきっかけを提供する。参加者を第一に考え、参加者が積極的に参加できるわかりやすい企画をする。参加する全員が学べる楽しい企画」という企画理念を軸として企画に取り組みました。

毎年、1回生は12月の初めに2回生以降どのコースに進むのかを決めます。コース選択希望を提出する前に、色んなコース・領域の上回生と話せる場を設け、1回生の後悔のないコース選択をサポートしたいと考え、企画致しました。

企画当日には、まずプレゼンを通して企画の意義や概要を説明したうえで、コース選択に必要な情報をお伝えしました。その後、約20分間のトークを2回行いました。

トーク企画では、コースごとの詳細ではなく、「文学部の幅広さ」、そして、「物事には色々な見方がある」ということを参加者に知って頂きたかったため、1つのお題に関して上回生自身が学んできたコースでの視点をもとに話していただきました。お題は、「芸術」「マイノリティー」「時間」「子ども」「宗教」「旅」「大阪」「権力」「文字」「メディア」「笑い」「本」です。この12個のお題は、文学部・文学研究科教育促進支援機構で出版している、文学部案内冊子及びフォーラム人文学にある卒業論文のテーマ・タイトルなどをもとに決めました。なお、事前に当日スタッフの皆様にはお題をお伝えし、準備していただきました。それをもとに、当日は、この12個のお題を各ブースで1つつ話していただきました。ブースの中には、2コース以上の上回生を配置し、ご本人の観点からお題について1回生と話をし、1回生には疑問に思ったことやもう少し具体的に聞きたい部分などについて質問していただきました。

最後には、まとめのプレゼンを行いました。参加者に企画全体を振り返って、感じたことや気づ

いたことなどをワークシートに書いていただきました。なお、今後コース選択で迷った時に役立つ方法もお伝えしました。

本企画では、「1回生に文学部の多様性と物事には色々な見方があるということを知ってほしい」「後悔のないコース選択ができるようにするため、参加者にとって今役立つ情報は何か」を常に意識して企画しました。ご多忙の中、本企画中・企画終了後もご指導、ご助言を下さった方々のおかげで無事に企画を終了することができました。企画スタッフ一同、本当に多くのことを経験し、学びを得ることができました。本企画が参加者の皆様の「後悔のないコース選択」の一助となれば幸いです。ご協力いただいた教員の皆様や当日スタッフの皆様、最後まで応援して下さった方々、そして参加者の皆様にこの場をお借りして厚く御礼申し上げます。結びの言葉とさせていただきます。本当にありがとうございました。

社会学コース 3回生 安西正宏





文学部案内冊子

企画期間：5月～7月

企画スタッフ：13名（4回生1名、3回生5名、2回生3名、1回生4名）

+サポートスタッフ複数名

発行部数：6500部



文学部案内冊子編集スタッフの我々13名は、「・高校生をメインターゲットにする」「・大学に入ってから役立つ正確な情報と機能性のある親しみやすいデザインで市大文の特徴がよくわかる信頼感と遊び心を兼ね備えた文学部案内冊子」「・市大文に行きたいと思ってもらえ、受験のモチベーションになれるような冊子を作る」の3つを企画理念に据え、サポートスタッフの方々にお力添えをいただきながら冊子の企画・編集作業を行なってまいりました。主な掲載内容は以下の通りです。

- ・学部長インタビュー(文学部の特徴・魅力、学生の印象、どのような力が身につくか、文学部の存在意義、どんな学生に来てほしいか)
- ・4年間のカリキュラム、文学部組織図
- ・制度説明(コース選択、留学、資格取得など)
- ・コース紹介(各コースについて、先生の研究について、所属学生インタビュー(コースでの学び、コースを選んだきっかけ、コースのPR)、教員紹介、卒論タイトル例、各コースにとって「物語」とは、(新学科コースのみ)授業紹介)
- ・学生生活について(時間割、主な生活スタイルなどを内容を分けて座談会、インタビュー、アンケートで掲載)
- ・体験談(留学や資格取得、コースおよび進路選択)
- ・卒業後進路一覧
- ・受験期体験談
- ・支援機構について(組織図、活動紹介、企画参加者へのインタビュー)
- ・編集スタッフ紹介、リーダーによるあとがき

高校生が知りたいであろう学部や受験、学生生活についての情報を載せることはもちろん、入学後のコース選択、進路選択においても役に立つ情報を載せることを意識しながら掲載記事を編集しました。公式冊子としての格式は保ちながら、程よくコラムなどを挿入することで堅苦しくならず

に読んでもらえる冊子ができたかと思えます。

本企画では例年に比べてスタッフの人数が少なかったうえ、リーダーを4人設置するなど新たな試みも多くありました。やりたいこととできることのギャップを考える良い機会を得られた企画であったと感じております。この場をお借りしまして、企画に携わっていただきました先生方とサポートスタッフの皆様、並びに取材にご協力いただきました先生方と学生の皆様に厚く御礼申し上げます。本当にありがとうございました。

哲学コース 3回生 酒井優太
国語国文学コース 3回生 東野桃
表現文化コース 3回生 藤井日向子
表現文化コース 3回生 山口有夢
(五十音順)
(文責：山口)





オープンキャンパス

実施日：2019年8月10日(土)、11日(日)
 場所：大阪市立大学杉本キャンパス 1号館、田中記念館
 企画期間：5月～8月
 企画スタッフ：23名(4回生3名、3回生2名、2回生8名、1回生10名)
 当日スタッフ：51名
 参加者：10日1903名、11日1419名
 企画名：「学部説明会第2部(プレゼンテーション)」「大論争!スマッシュリテラーズ(学び企画)」「喋る!りてら御殿!!(フリートーク)」「L-studio(お悩み相談)」「Literagram #市大文 #展示企画(展示)」
 ご協力いただいた先生方：佐賀先生をはじめとした多くの先生方



企画理念

- ・参加者が市大文について知り、不安が取り除かれ、将来について考えることで後につなげていけるOC
- ・常に真剣に双方の成長を目指して、参加者目線にたった、市大文に来たいと思えるくらい素晴らしい学生企画をつくる
- ・暑さに勝つ

文学部オープンキャンパス学生企画は、学生目線での市大文学部を参加者に伝えることで、参加者の進路選択をサポートすること目的としています。どのようにすれば参加者にとってより良い企画を作り上げることができるのか、有志の学生たちが教職員の方々と連携・協力しながら毎年企画を行っています。

今年は企画スタッフ23名が集まり、活動を開始しました。参加者のために何が出来るか、何を準備することができるかを一人ひとりが一生懸命考え、皆で意見を交わし、企画を作り上げていきました。時には互いの考えがぶつかり合うこともありましたが、その度に参加者にとって大切なことが何かを念頭に置きながら、納得いくまで話し合い、問題を乗り越えていきました。

今回は、学部説明会第2部でのプレゼンテーションや大学での学びについて考える企画、文学部生とのトーク企画、展示企画といったバラエティ豊かな企画を準備しました。参加者の反応としては、どの企画も概ね好評をいただきました。当日の参加者の笑顔、驚き、考える様子を見、また参加者との交流を通して、スタッフは喜びや達成感を味わい、また自身の成長を感じる機会にもなったと思います。私自身もスタッフが参加者と交流する様子を見て、参加者にとって良い企画をつくることができたと思うと同時に、それぞれのスタッフの成長を感じました。参加者はもちろん、企画を通じたスタッフの成長は、私が支援機構の活

動において非常に大切にしたいことです。それが形となって表れているのを感じて非常に嬉しく思いました。また、この活動を通してかけがえのない仲間を手に入れることができたと思います。3か月間、企画を共に作り上げた仲間は何にも代えがたい大切な存在です。

このような素晴らしい経験をすることができたのは、準備段階から何度も相談にのっていただき、協力いただきました教職員の皆様や、当日の運営に大きな力をお貸しくださった当日スタッフの皆様のおかげです。この場をお借りして、企画スタッフを代表して厚く御礼申し上げます。この活気あふれるオープンキャンパス学生企画が今後も続けられていくことを願っています。

教育学コース 3回生 富岡優





りてらちゃん LINE スタンプ

企画期間：2018年3月～2019年10月（断念）

企画スタッフ：3名（4回生1名、3回生2名）

お世話になった先生方：仁木先生、草生先生、佐伯先生、福島先生

お世話になった職員方：歳嶋さん、倉家さん



この企画は、「市大文を知ってもらうために、学外以外の人でも使いやすく、支援機構が身近に感じられる、かわいりてらちゃんスタンプ」を理念として立ち上げたものでした。この企画をきっかけとして、学内外の人が支援機構に親しみを持ち、延いては文学部を知ってもらうことにつながりたいという思いが込められています。

私が企画スタッフとして複数の企画に携わってきたなかで、学生間の支援機構への関心が必ずしも高くないと感じる場面があり、その経験から支援機構の認知・理解について考えるようになりました。支援機構の活動は、関心をもって参加してみようとする学生がいることで、成り立っているものであるため、支援機構の活動を持続・充実させていくためには、支援機構とその活動に対する認知・理解を高めることが不可欠です。支援機構への認知・理解を高めるためには、従来行ってきた活動を充実させることに加えて、従来行なってこなかった活動で、支援機構の活動の多様性や間口の広さを示すことが必要ではないかと考えました。

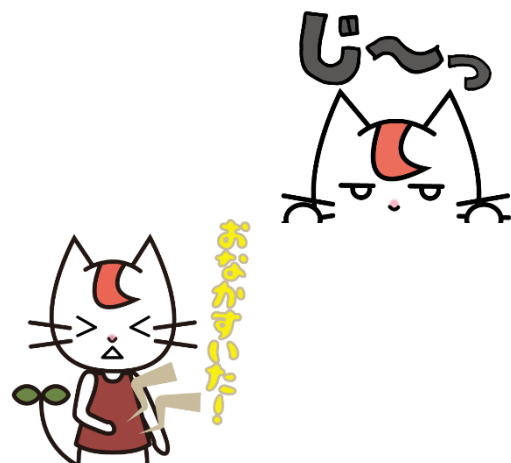
そうした意図のもとで、LINE スタンプ企画の実現に向けて活動しておりました。しかし、本企画は LINE スタンプという特殊性から、懸念される問題点が非常に多く、それを解決できる十分な策を示すことはできませんでした。そのため、苦渋の決断ではありましたが、最終的に本企画を断念するという結論に至りました。

1年半という長い時間を掛けながら実現させることは叶わず、断念となった企画ではありますが、本企画の反省点が今後の企画に何かの形で寄与できるものであったならば、この上ない幸いです。運営委員をはじめとする先生方と学生スタッフとの間で意見交換する機会を設け、学生にはない意

見交換する機会を設け、学生にはない意見を多くいただいたことや、従来慣例で運用されていた支援機構公式マスコットキャラクター「りてらちゃん」のガイドラインを作成したことなど、今後の活動に寄与できる部分はあると考えています。また、スタンプの作成にあたっては、企画スタッフ3名でアイデアを出しあって、日常生活で使いやすく、親しみの持てるかわいらしいデザインを心掛け、合計24個のイラストを作成しました。LINE スタンプとなることは叶いませんでしたが、これらのイラストが今後の企画で活用されることになれば幸いです。

最後に、本企画に協力・助言をくださった先生方、事務のみなさま、学生のみなさまに、企画スタッフを代表して心より感謝いたします。

地理学コース 4回生 倉田英法





秋のコースガイダンス

実施日：2019年11月15日(金)3限

場所：大阪市立大学杉本キャンパス 8号館 (831、83F、83G、83H、83J 教室)

企画期間：9月～当日

企画スタッフ：5名 (4回生2人、3回生1人、2回生1人、1回生1人)

当日スタッフ：26名 (前期博士課程1回生1人、4回生6人、3回生12人、2回生7人)

参加者：45名



学生による秋のコースガイダンス 2019 では、「スタッフは学生ならではのコース選択の材料を用意する。/参加者は知りたいことが知れるきっかけを得ることができ、改めて自身の興味について考えることで自信と根拠を持ってコース選択ができる。/そんな楽しい秋 CG」を理念とし、企画に取り組みました。

本企画は1回生を対象とし、コース選択のおよそ1か月前となる11月に、1回生と上回生との交流の場を設け、コースに対する理解や自身の興味との結びつきなどを見つめなおす一助とすることを目的として開催いたしました。今年度は、新コース設置のため、先輩学生がいないコースがあることや、新コースについて企画時点で分かっている情報が他コースに比べて少ないといった課題と向き合いながらの準備となりました。企画の準備では順調に進むことばかりではありませんでしたが、1回生の自信と根拠を持ったコース選択の助けとなる企画にするためにはどうすればよいか、常に考えながら企画を進めました。

本企画では3つのコンテンツを行いました。『プレゼン・ワーク』ではコース選択する際に必要な情報や考えてほしいことを伝え、「自分のやりたいこと、興味のあること」を改めて考えてもらいました。『フリートーク』では参加者が先輩学生に自由に質問したり相談したりできるよう、異なる2~3つのコースに所属する当日スタッフと参加者が輪を作りトークを行いました。いろいろな人の話を聞くことで多様な視点を持った上で改めてコース選択について考える機会となりました。どの輪も和気藹々とした様子で、コースの雰囲気や研究手法、学びたいことなどについてたくさんの

質問が出ていました。また企画後もコース選択の助けになるよう『冊子』を作成し配布しました。参加者自身が知りたい情報を調べる方法の紹介や、各コースの先生方からのおすすめの本などコースに関する情報を掲載いたしました。

参加した1回生だけでなく、当日スタッフや企画スタッフにとっても改めて自身の興味を振り返り、大学での学びや卒論について考えるきっかけとすることができました。

こうした充実した企画が開催できたのは、お忙しい中ご協力いただいた教員の皆さま、当日の企画運営に携わっていただいた当日スタッフの皆さまのおかげです。この場をお借りし、スタッフを代表して御礼申し上げます。ありがとうございました。

言語応用コース 4回生 石田 夏葵





進路ガイダンス

実施日：2019年12月6日(金)、13日(金)

場所：6日 830 教室、13日 831 教室、83G 教室、83H 教室、83J 教室

企画期間：9月末～当日

企画スタッフ数：7名(1回生1人、4回生6人)

当日スタッフ数：6日9名(冊子掲載にご協力いただいた方が別に1名)、13日11名

ご協力いただいた先生方：辻野先生(教育学コース)、村田さん(就職支援室)、小林さん(大学運営部教育推進課教職担当)



この企画は「参加者が必要な情報を正確に知り先輩の生の声を聞き、手を動かしながら考える。幅広い選択肢を実感をもって知ることで、不安が和らぎ働くことに前向きになり、自分の進路について考え始める。みなにとって得るものがある進路ガイダンス。」を理念として活動しました。今年度も2017年度と同じく2日間企画を開催しました。

1日目には、民間・公務員・教員・大学院それぞれの進路に内定を決めた4回生にパネルディスカッションをしてもらうとともに、参加者には自己分析をテーマとしたワークを行なってもらいました。対象としては1、2回生向けでした。2日目は、自身の進路について考えてもらう内容のワークと、前述した4つの進路に内定を決めた先輩との座談会を行ないました。この日の対象としては3回生向けでした。

また2日間とも、ワークを行う際にはスタッフが補助に入る形式をとりました。この形式は参加者から好評でした。

この企画は、当初は「就活ガイダンス」として民間就職を対象を絞った企画となる予定でしたが、企画スタッフとして様々な進路に内定を決めた4回生や1回生が参加した結果、幅広い進路を視野に入れた企画「進路ガイダンス」として開催されました。このような幅広い進路を扱うことができたのは大きな意義があったと思います。

参加者からは「就職について考えるきっかけとしても役立つ情報や、自己分析だったと思います。」や「進路について考えるととても良い機会になりました。」との声も聞かれました。参加者にとっては自分の進路について何かしらを考えるきっかけ

けになったと思っています。

また企画を作り上げていく中でスタッフ自身も、自分たちが選んだ以外の進路についての学びや、自身がどのようにそれぞれの進路を決めたのかについて考えることがあったように思います。

今回の企画では、企画スタッフと教員や運営委員会の学生スタッフで行われる小委員会を設置しました。そこでご協力いただいた教員や学生委員、また当日スタッフの皆様方に感謝するとともに、今後も似たような企画が続いていくことを願っています。

日本史コース 4回生 吉田麟太郎

